

情報システムユーザースキル標準(UISS)
(00) IS入門
(研修ロードマップ)

2009. 03

社団法人日本情報システム・ユーザー協会
情報システムユーザースキル標準センター

独立行政法人 情報処理推進機構
経済産業省

| | |
|----------------|--------|
| 1. 研修コース群(体系図) | (00)-2 |
| 2. 研修コース一覧 | (00)-3 |
| 3. 研修コースの内容 | (00)-4 |

研修コース体系図 (00)IS入門

 =当該領域研修コース
  =他の領域研修コース

| | 入門 | 初級 | 中級 | 上級 |
|--------|----------------|----------|----|----|
| テクノロジー | 基礎理論入門 | | | |
| | ハードウェア入門 | | | |
| | ソフトウェア入門 | | | |
| | システム開発技術入門 | | | |
| | ネットワーク入門 | データベース入門 | | |
| | マルチメディア入門 | セキュリティ入門 | | |
| マネジメント | プロジェクトマネジメント入門 | | | |
| | サービスマネジメント入門 | システム監査入門 | | |
| ストラテジ | システム戦略入門 | | | |
| | ビジネスインダストリ入門 | | | |
| | 経営戦略入門 | | | |
| | 企業活動と法務入門 | | | |

研修コース一覧 (00) IS入門

| 分類 | コース名 | 研修方法 | | | 研修期間 | | ページ | 備考 (参照先) |
|--------|----------------|--------|----|-------------|------------------|---------------|---------|-------------|
| | | eラーニング | 講義 | ワーク ショップ | eラーニング (標準時間) | クラス (標準日数) | | |
| 入 門 | 基礎理論入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-4 | |
| | ハードウェア入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-5 | |
| | ソフトウェア入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-6 | |
| | システム開発技術入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-7 | |
| | マルチメディア入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-8 | |
| | データベース入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-9 | |
| | ネットワーク入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-10 | |
| | セキュリティ入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-11 | |
| | プロジェクトマネジメント入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-12 | |
| | サービスマネジメント入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-13 | |
| | システム監査入門 | ○ | ○ | | 3 時間 | 0.5 日間 | (00)-14 | |
| | システム戦略入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-15 | |
| | ビジネスインダストリ入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-16 | |
| | 経営戦略入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-17 | |
| | 企業活動と法務入門 | ○ | ○ | | 6 時間 | 1 日間 | (00)-18 | |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | 基礎理論入門 |
|-------------------------------------|---|
| 講座分類 | ■入門 □初級 □中級 □上級 □特論 |
| コースのねらい | <p>当コースは、コンピュータで扱う基礎理論として、基数の基本的な考え方、集合、確率と統計、情報量の単位、文字表現などの知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、コンピュータの基礎理論として2進数などの特徴や演算などの基数の考え方、ベン図などの集合や論理演算、順列、組み合わせ、確率などの計算方法、度数分布表、ヒストグラム、平均などの統計の考え方、ビットやバイトなどの情報量や文字などの表現方法などについて学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間(eラーニング) |
| スキル修得目標 | <p>2進数の表現や演算、基数変換の方法、負の数の表現、表現可能な数値の範囲などについて理解する。</p> <p>集合と命題、ベン図、真理値表などの考え方理利用方法を理解する。</p> <p>論理演算の基本的な考え方と演算方法について理解する。</p> <p>データの収集、分析、加工に必要な確率と統計の基本的な考え方を理解する。</p> <p>コンピュータで扱う数値やデータに関する基本的な理論を理解する。</p> <p>情報量の表し方、デジタル化の考え方や文字の表現について理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>2進数、基数変換、負の数の表現と2の補数、表現可能な数値の範囲</p> <p>集合、命題、ベン図、真理値表、論理演算(AND、OR、NOT)</p> <p>順列、組み合わせ、確率、度数分布、ヒストグラム、平均</p> <p>情報量と情報量の単位、デジタル化、文字表現、コード</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>ハードウェア入門</div> <div>(コンピュータ構成要素、システム構成要素、ハードウェア)</div> |
|-------------------------------------|--|
| 講座分類 | <div>■入門 □初級 □中級 □上級 □特論</div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、コンピュータの種類やコンピュータのハードウェアを構成する機器、およびコンピュータの周辺機器の知識を修得することをはじめ、システムの構成や処理形態、システムの性能・信頼性・経済性などを理解することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、コンピュータの種類とコンピュータを構成する 5 大装置(演算、記憶、制御、入力、出力)について理解し、メモリの種類やその特徴、プロセッサの構成や制御、処理速度の高速化を行うメモリアーキテクチャをはじめ、磁気ディスク装置などの記憶装置や記憶媒体、マウスやキーボードなどの入力装置、ディスプレイやプリンタなどの出力装置、これらを接続するインターフェースなどについて学習する。さらに、コンピュータシステムの代表としてのクライアントサーバシステムをはじめ、処理形態や利用形態のより構成方式およびシステムの性能・信頼性・経済性などについて学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日 (クラスルーム)、標準時間 6 時間(eラーニング) |
| スキル修得目標 | <p>コンピュータの種類とコンピュータを構成する 5 大装置(演算、記憶、制御、入力、出力)とプロセッサの仕組みを理解する。</p> <p>メモリの種類や記憶階層および特徴、メモリキャッシュに関するヒット率やプロセッサの構造と動作原理、割り込み制御などについて理解する。</p> <p>磁気ディスク装置などの記憶装置や記憶媒体について、その特徴を含めて理解する。</p> <p>入力装置および出力装置および入出力インターフェースについて理解する。</p> <p>システムの構成や処理形態、システムの性能・信頼性・経済性などについて理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>コンピュータの種類、5 大装置(演算、記憶、制御、入力、出力)</p> <p>メモリアーキテクチャ、プロセッサアーキテクチャ、入出力インターフェース</p> <p>システム構成要素(処理形態、システム構成、利用形態、など)</p> <p>システムの評価指標(レスポンスタイム、稼働率、MTBF, MTTR、など)、システムの経済性(初期コスト、運用コスト、TCO)</p> |

| <div> <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> </div> | ソフトウェア入門 |
|--|---|
| 講座分類 | <div> <div>■入門</div> <div>□初級</div> <div>□中級</div> <div>□上級</div> <div>□特論</div> </div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、コンピュータのソフトウェア構成するオペレーティングシステムやその機能となるファイルシステム、およびソフトウェアパッケージやオープンソースソフトウェアの入門的な知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、オペレーティングシステムについてはその必要性と機能および種類を、さらにその機能の一部であるファイルシステムファイル管理とバックアップについて学習し、開発ツールについてはオーサリングツールやオフィスパッケージ、オープンソフトウェアについてはその種類と特徴についての知識を修得する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間(eラーニング) |
| スキル修得目標 | <p>オペレーティングシステムの必要性、機能、種類を理解する。</p> <p>ファイル管理の基本的な仕組みとアクセス方法、ファイル共有やアクセス権の設定などについて理解する。</p> <p>バックアップの必要性、取得方法や手順、世代管理などを理解する。</p> <p>オフィスソフトや開発ツールなどのパッケージソフトについて理解する。</p> <p>オープンソースソフトウェアの特徴および利用目的、留意点などを理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>オペレーティングシステムの必要性、機能、種類</p> <p>ファイルのアクセス方法、ファイル共有、アクセス権</p> <p>オーサリングツール</p> <p>オフィスソフト(ワープロ、表計算、データベース、プレゼンテーション、など)</p> <p>オープンソースソフトウェア</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>システム開発技術入門</div> <div>(システム開発技術、ソフトウェア開発管理、アルゴリズムとプログラミング)</div> |
|-------------------------------------|--|
| 講座分類 | <div>■入門 □初級 □中級 □上級 □特論</div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、システム開発のプロセスや手法に関する門的な知識、およびデータ構造と基本的なアルゴリズムの知識、プログラミングの役割やプログラム言語、マークアップ言語の特徴を修得すること目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、ソフトウェア開発を効率的に行うために、ソフトウェアに関する手法や考え方、データおよびデータ構造の基本的な考え方を学習し、業務の分析やシステム化を行うためにアルゴリズムや流れ図の基本的な考え方や表現方法、およびプログラミングの役割やプログラム言語、マークアップ言語の特徴について学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。そのため、システム開発技術そのものではなく、入門者レベルとして求められるシステム開発技術を管理するための知識を獲得する。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>代表的なソフトウェア開発手法の特徴、代表的なソフトウェア開発モデルの特徴について理解する。</p> <p>ソフトウェア開発の取引の適正に向け、標準化された共通フレームがあることを理解する。</p> <p>データおよびデータ構造、リスト、スタックおよびキューなどの考え方を理解する。</p> <p>順次構造、選択構造、繰返し構造などのアルゴリズムの基本構造、合計、探索、併合、整列などの基本アルゴリズムを理解する。</p> <p>プログラミングの役割、目的、原理、プログラミ言語・マークアップ言語の種類や特徴を理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>構造化手法、オブジェクト指向、データ中心アプローチ、プロセス中心アプローチ</p> <p>ウォーターフォールモデル、スパイラルモデル、プロトタイプモデル、RAD、共通フレーム（SLCP）</p> <p>変数、フィールドタイプ、配列、レコード、ファイル、リスト、スタック、キュー</p> <p>流れ図、アルゴリズムの基本構造（順次、選択、繰返し）、基本的なアルゴリズム（合計、探索、併合、整列、など）</p> <p>プログラム言語（C、Java、COBOL など）、マークアップ言語（タグ、HTML、SGML、XML など）</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>マルチメディア入門</div> <div>(ヒューマンインターフェース・マルチメディア)</div> |
|-------------------------------------|---|
| 講座分類 | <div>■入門 □初級 □中級 □上級 □特論</div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、マルチメディアの定義を理解し、マルチメディアシステムやマルチメディアの応用技術に関する知識と、マルチメディアを応用したヒューマンインターフェースを修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、マルチメディアとハイパーメディアとに分類し、マルチメディアについては画像、動画、音声等を統合して扱うシステムとして、CG、3DCG、AI をはじめ、マルチメディアを利用するインターネット放送やビデオオンデマンドについて学習し、ハイパーメディアについては画像、動画、音声等を含むハイパーテキストにリンク付けられ、WWW で構築されるものとして学習する。さらに、ヒューマンインターフェースやインターフェース設計について学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>画像、動画、音声等を統合するオーサリングツールを理解する。</p> <p>CG、3DCG、AI などのマルチメディアシステムについて理解する。</p> <p>マルチメディアを応用したインターネット放送やビデオオンデマンドについて理解する。</p> <p>マルチメディアとハイパーメディアの概念と、WWW で構築されるハイパーメディアを理解する。</p> <p>GUI部品を活用したヒューマンインターフェースについて理解する。</p> <p>画面・帳票設計、Webデザイン、ユニバーサルデザインなどについて理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>マルチメディア、マルチメディアシステム（3DCG、AI など）</p> <p>マルチメディア応用（インターネット放送、ビデオオンデマンド、など）</p> <p>ハイパーメディア、ヒューマンインターフェース、インターフェース設計</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | データベース入門 |
|-------------------------------------|---|
| 講座分類 | <input checked="" type="checkbox"/> 入門 <input type="checkbox"/> 初級 <input type="checkbox"/> 中級 <input type="checkbox"/> 上級 <input type="checkbox"/> 特論 |
| コースのねらい | <p>当コースは、データベースおよびデータベース管理システムを理解し、データベース設計、データ操作、およびトランザクション処理に関する知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、データベースおよびデータベース管理システムの意義、目的、考え方を理解し、データベース設計や関係データベースによるデータ操作、データベースの処理方法について学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>データベースおよびデータベース管理システムの意義、目的、考え方を理解する。</p> <p>データの分析や設計などのプロセスを理解する。</p> <p>関係データベースを活用するためのデータ操作を理解する。</p> <p>データベースの排他制御やリカバリ処理方法などについて理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>データベース管理システム</p> <p>データ分析・設計</p> <p>正規化</p> <p>データ操作（選択、挿入、更新、射影、結合、など）</p> <p>排他制御、リカバリ処理</p> |

| コース名 | ネットワーク入門 |
|----------|---|
| 研修コースの内容 | |
| 講座分類 | ■入門 □初級 □中級 □上級 □特論 |
| コースのねらい | <p>当コースは、ネットワークを構成する機器、およびLANやWANなどの知識、通信プロトコルやネットワークを応用した技術を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、ネットワークの構成やその要素の基本を理解し、TCP/IPなどの通信プロトコル、LANやWAN、ネットワークに関するセキュリティ、およびネットワーク応用技術であるインターネットの仕組みとサービスなどについて学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>LANとWANの概要を理解する。</p> <p>ネットワークを構成する各種機器を理解する。</p> <p>通信プロトコルについて理解する。</p> <p>インターネットの仕組みとサービスを理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>LAN、WAN</p> <p>ネットワーク機器（ハブ、ルータ、スイッチ、モデム、伝送路、など）</p> <p>通信プロトコル（TCP/IP、HTTP、HTTPS、FTP、POP、SMTP、など）</p> <p>ネットワーク利用技術</p> <p>インターネットの仕組み（IPアドレス、DNS、URL、伝送速度、など）</p> <p>インターネットサービス（メール、cc、bcc、パケット通信、など）</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>セキュリティ入門</div> |
|-------------------------------------|---|
| 講座分類 | <div>■入門 □初級 □中級 □上級 □特論</div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、ISを活用する上で必要となる情報セキュリティの内容をはじめ、情報セキュリティ管理やセキュリティ対策に関する入門的な知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、情報セキュリティの基礎知識として、不正侵入、ウイルス、ワームなどの攻撃の種類を分類し、それぞれどのような被害が発生し、どのような予防策が有効かを理解するとともに、セキュリティ被害にあった場合の適切な対処法、各種情報の保護策や情報漏えいの防止策や実装技術について学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。また、ISに携わる者としての情報セキュリティに関する倫理観を養うように配慮する。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>情報セキュリティに対する脅威と脆弱性など、情報セキュリティについて理解する。</p> <p>攻撃の種類（不正侵入、ウイルス、ワームなど）を分類し、必要な予防策について理解する。</p> <p>各種情報の保護や情報漏えいの防止の意義を理解し、それぞれの予防策や防止策に従った行動について理解する。</p> <p>情報セキュリティを維持するために必要な技術（認証、アクセス制御、暗号など）の役割を理解し、実践する。</p> |
| 関連知識 | <p>情報漏えい、紛失、破損、盗み見、なりすまし、クラッキング、ソーシャルエンジニアリング、誤操作</p> <p>ウイルス、フィッシング詐欺、DOS 攻撃、ファイル交換ソフトウェア、セキュリティホール、災害、破壊</p> <p>リスクマネジメント、情報セキュリティポリシー、情報セキュリティマネジメント（機密性・完全性・可用性）</p> <p>ISMS、個人情報保護法、プライバシーマーク制度、情報セキュリティ教育、アクセス権、アクセス制御、ID、暗号化、パスワード、コールバック、コンテンツフィルタ、共通かぎ暗号、公開かぎ暗号、デジタル署名、暗号化、復号</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | プロジェクトマネジメント入門 |
|-------------------------------------|--|
| 講座分類 | <input checked="" type="checkbox"/> 入門 <input type="checkbox"/> 初級 <input type="checkbox"/> 中級 <input type="checkbox"/> 上級 <input type="checkbox"/> 特論 |
| コースのねらい | <p>当コースは、プロジェクトに参画する者として、基本的なプロジェクトマネジメントの知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、プロジェクトマネジメント全局面（プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了、など）の知識領域（統合マネジメント、スコープマネジメント、タイムマネジメント、コストマネジメント、品質マネジメント、組織マネジメント、コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメント、調達マネジメント、など）について基礎的な内容を学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間（eラーニング 6 時間×1 日） |
| スキル修得目標 | プロジェクトマネジメントに関する基本的な知識を活用し、IS に携わる者として、プロジェクト業務を遂行できる。 |
| 関連知識 | <p>プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了</p> <p>統合マネジメント、スコープマネジメント、タイムマネジメント、コストマネジメント、品質マネジメント、組織マネジメント、コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメント、調達マネジメント</p> <p>プロジェクトマネージャ、プロジェクトメンバ、ステークホルダ、プロジェクトスコープ</p> <p>WBS、ガントチャート、アローダイアグラム</p> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>サービスマネジメント入門</div> |
|-------------------------------------|---|
| 講座分類 | ■入門 □初級 □中級 □上級 □特論 |
| コースのねらい | <p>当コースは、ITサービスサポートやファシリティマネジメントを含基本的なサービスマネジメントの知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、情報システムの安定的かつ効率的に運用し、利用者に対するサービスの品質を維持・向上させるための IT サービスマネジメントやシステム環境を管理するファシリティマネジメントについて、その意義や目的、考え方を学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <p>IT サービスマネジメントについて、その意義や目的、考え方を理解する。</p> <p>サービスサポートにおけるヘルプデスクなどの関連項目を理解する。</p> <p>システム環境整備に関する考え方を理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>IT サービスマネジメント、ITIL</p> <p>サービスレベル契約（SLA）、サービスレベルマネジメント（SLM）</p> <p>インシデント管理（障害監理）、問題管理、構成管理、変更管理、リリース管理</p> <p>サービスデスク（ヘルプデスク）</p> <p>無停電電源装置（UPS）、セキュリティワイヤ、ファシリティマネジメント</p> |

| <div> <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> </div> | <div>システム監査入門</div> |
|--|--|
| 講座分類 | <div> <div>■入門</div> <div>□初級</div> <div>□中級</div> <div>□上級</div> <div>□特論</div> </div> |
| コースのねらい | <div> <div>当コースは、システム監査および内部統制の知識を修得することを目的とする。</div> <div>○ 当コースでは、システム監査の目的、意義、考え方などと、システム監査の基本的なプロセス理解すること、および企業における内部統制やITガバナンスの目的や基本的な考え方を学習する。</div> <div>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</div> </div> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数 0.5 日（クラスルーム）、標準時間 3 時間（eラーニング） |
| スキル修得目標 | <div> <div>企業における監査業務について、その種類と目的および対象を理解する。</div> <div>情報システムを対象とするシステム監査について、意義、目的について理解する。</div> <div>情報システム監査の基本的なプロセスについて理解する。</div> <div>企業の健全な運営を実現する内部統制やITガバナンスの目的と考え方を理解する。</div> </div> |
| 関連知識 | <div> <div>会計監査、業務監査、</div> <div>情報セキュリティ監査、システム監査</div> <div>システム監査人、システム監査基準、</div> <div>システム監査計画、予備調査、本調査、監査証跡、システム監査報告書</div> <div>内部統制、ITガバナンス、</div> <div>金融商品取引法（日本版SOX法）</div> </div> |

| <div> <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> </div> | <div> <div>システム戦略入門</div> <div>(システム戦略、システム化企画)</div> </div> |
|--|--|
| 講座分類 | <div> <div>■入門</div> <div>□初級</div> <div>□中級</div> <div>□上級</div> <div>□特論</div> </div> |
| コースのねらい | <div> <div>当コースは、情報システム戦略の意義と目的を理解し、業務改善を前提と業務プロセスの分析、問題解決をITの有効活用の方法を学習し、ソリューション、システム化計画、要件定義、調達の計画と実施の知識を修得すること目的とする。</div> <div>○ 当コースでは、情報システム戦略の意義と目的について理解し、業務プロセスの問題についてITを活用して解決する方法、およびソリューションの考え方について学習する。また、システム戦略を実現するシステム化計画、要件定義、調達の流れを理解する。</div> <div>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</div> </div> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間(eラーニング 6 時間×1 日) |
| スキル修得目標 | <div> <div>情報システム戦略の意義と目的、戦略目標について理解する。</div> <div>業務プロセスをモデル化し、改善策を検討する考え方、およびシステム化計画の目的やプロセスを理解する。</div> <div>システム活用促進活動の意義と目的を理解する。</div> <div>システム化計画の目的を理解する。</div> <div>業務要件定義の目的を理解し、業務の分析、データの洗い出しや整理を理解する。</div> <div>調達の基本的な流れを理解する。</div> </div> |
| 関連知識 | <div> <div>SFA、E-R図、DFD、BPR、BPM、ワークフローシステム、SaaS、ASP</div> <div>アウトソーシング、ホスティングサービス、ハウジングサービス</div> <div>情報リテラシー、データ活用、普及啓発、システム化スケジュール、体制、リスク分析、費用対効果、適用範囲、</div> <div>利用者の要求調査、調査内容の分析、現行業務の分析、業務要件の定義、機能要件の定義、</div> <div>提案依頼書、提案書、見積書</div> </div> |

| <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> | <div>ビジネスインダストリ入門</div> |
|-------------------------------------|--|
| 講座分類 | <div>■入門 □初級 □中級 □上級 □特論</div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、ビジネスシステム、エンジニアリングシステム、e ビジネス、民営機器、産業機器についての知識を修得することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、各種ビジネスシステムとパッケージ、代表的なエンジニアリングシステム、e ビジネスの特徴、民営機器や産業機器などの組み込みシステムの特徴などについて学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間（eラーニング 6 時間×1 日） |
| スキル修得目標 | <p>ビジネスシステム、エンジニアリングシステムについて理解する。</p> <p>e ビジネスの仕組みについて理解する。</p> <p>組み込みシステムについて理解する。</p> |
| 関連知識 | <p>流通情報システム、金融情報システム、</p> <p>POS、GPS、ETC、IC カード、タグシステム、ERP</p> <p>CAD、CAM、FA、EC、CIM、BtoB、BtoC、CtoC、BtoE、</p> <p>電子マーケットプレイス、オンラインモール、</p> <p>組み込みシステム、</p> |

| <div> <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> </div> | <div> <div>経営戦略入門</div> <div>(経営戦略マネジメント)</div> </div> |
|--|---|
| 講座分類 | <div> <div>■入門</div> <div>□初級</div> <div>□中級</div> <div>□上級</div> <div>□特論</div> </div> |
| コースのねらい | <div> <div>当コースは、代表的な経営戦略分析手法、マーケティング、ビジネス戦略立案および評価のための情報分析手法、経営管理システムなどの考え方、技術開発戦略および開発計画、についての知識を修得することを目的とする。</div> <div>○ 当コースでは、経営戦略のための分析手法、マーケティングに関連する基本的な考え方、ビジネス戦略立案および評価のための情報分析手法、経営管理を効果的に行うためのシステム、技術開発戦略および開発計画などについて学習する。</div> <div>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</div> </div> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間（eラーニング 6 時間×1 日） |
| スキル修得目標 | <div> <div>経営情報分析手法の基本的な考え方とオフィスツールを理解する。</div> <div>マーケティングにおける情報活用の考え方を理解する。</div> <div>ビジネス戦略立案と目標設定および評価を目的とする手法について理解する。</div> <div>経営管理を効果的に行う経営管理システムの基本的な考え方を理解する。</div> <div>技術開発戦略および開発計画の考え方を理解する。</div> </div> |
| 関連知識 | <div> <div>SWOT 分析、PPM、競争優位、顧客満足度、</div> <div>コアコンピタンス、アライアンス、アウトソーシング、M&A、CEO、CIO</div> <div>市場調査、販売計画、製品計画、仕入計画、販売促進、顧客満足、BSC、CSF、</div> <div>バリューエンジニアリング、経営管理システム</div> <div>流通情報システム、金融情報システム、</div> <div>POS、GPS、ETC、IC カード、タグシステム、ERP</div> </div> |

| <div> <div>コース名</div> <div>研修コースの内容</div> </div> | <div>企業活動と法務入門</div> |
|--|--|
| 講座分類 | <div> <div>■入門</div> <div>□初級</div> <div>□中級</div> <div>□上級</div> <div>□特論</div> </div> |
| コースのねらい | <p>当コースは、企業活動や経営管理に関する基本的な考えや会計と財務の知識を修得すること目的とする。および、企業として守るべき法律やガイドラインを理解し、企業規範としての倫理的な行動規範を教育することを目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、問題を解決するための代表的な手法、損益分岐点などの会計と財務に関する基本的な用語の意味と考え方、労働関連法規、セキュリティ関連法規、知的財産権などの法令等について理解し、遵守するように教育する。</p> <p>○企業倫理の重要性を理解し、倫理意識の向上や企業理念の周知を図り、企業倫理に基づく行動により、不祥事の発生を防止する実践的な行動ができるよう、倫理観の育成について学習する。</p> <p>○ 当コースは、入門講座の一環として、ITパスポート試験に出題される知識レベルとする。</p> |
| 受講対象者 | ISを活用して、ビジネスに携わろうとする者 |
| 研修方法 | 講義、eラーニング |
| 研修期間 | 標準日数1日（クラスルーム）、標準時間 6 時間(eラーニング) |
| スキル修得目標 | <p>企業の基本的な活動を理解し、業務の問題把握や解決するためにPDCAなどの考え方や手法を理解する。</p> <p>身近な業務を把握・分析するために必要となるORやIEを理解し、活用できる。</p> <p>損益分岐点などの会計と財務に関する基本的な用語の考え方を理解し、身近な業務に活用する。</p> <p>労働関連法規や取引関連法規、著作権法や産業財産関連法規の概要、コンプライアンスや技術者倫理の重要性を理解できる。</p> |
| 関連知識 | <p>企業理念、決算、社会的責任、経営目標、財務管理、資産管理、人事管理、情報管理、PDCA、階層型組織、事業部制、マトリックス組織、カンパニ制、プロジェクト組織、パレート図、PEET、散布図、レーダチャート、管理図、ヒストグラム、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、回帰分析、特性要因図、変動費、固定費、販売量、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、資産、流動比率、収益性、労働基準法、労働者派遣法、守秘義務契約、委任契約、雇用契約、下請法、PL 法、著作権法、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、不正競争防止法、ソフトウェアライセンス、肖像権、パブリシティ権、不正アクセス禁止法、コーポレートガバナンス、標準化、バーコード、JAN コード、QR コード</p> |